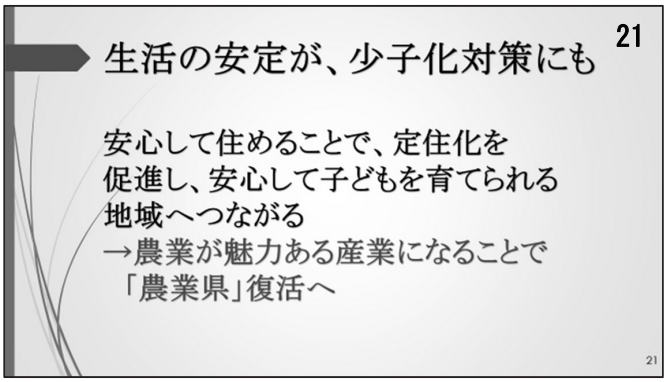
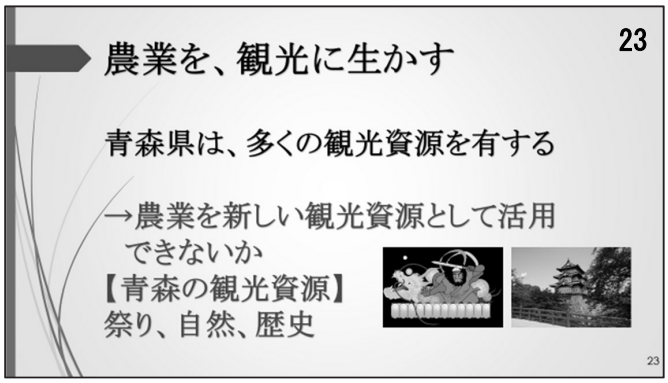
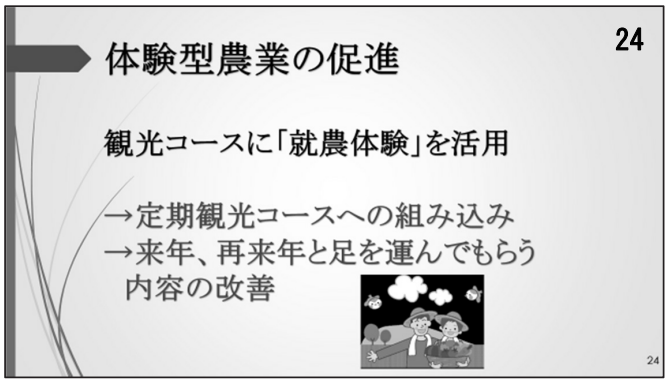


農業が魅力ある産業になることで「農業県」復活につながり、住みやすい魅力ある地域になります。(21)

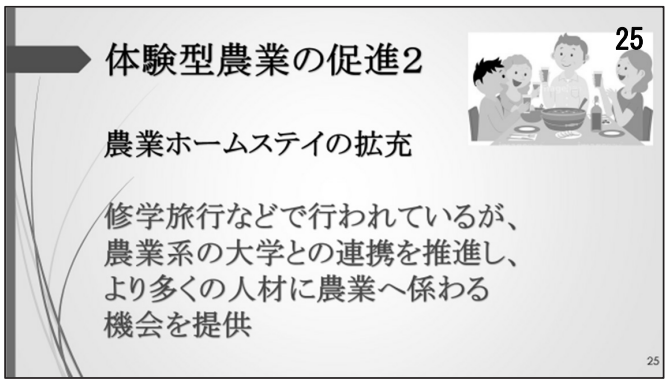
青森県の人口は今後 120 万人台へ。対策をしなければ人口減少が進んでしまいます。「住みたい」「生みたい」「育てたい」県にしたいです。(22)



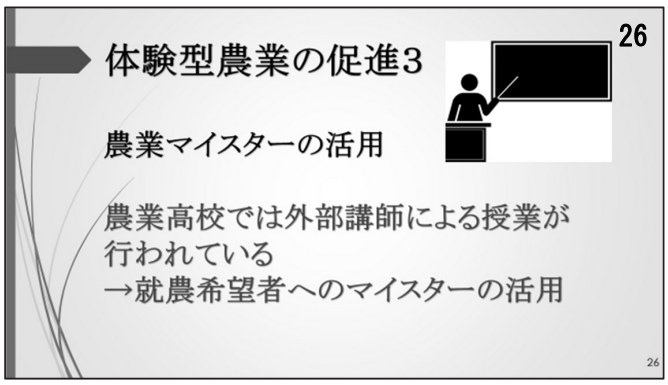
次は農業を観光に生かすという視点で考えてみました。青森県の観光資源として、祭り、自然、歴史など、たくさんの観光資源があります。(23)



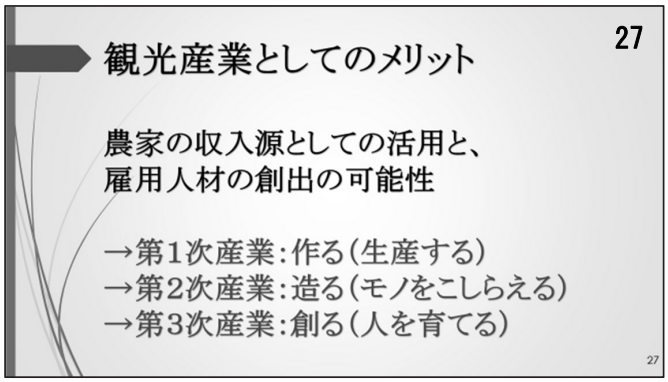
体験型農業の促進ということで、青森県が持つ観光資源を活かし、観光客に対して就農体験を取り入れることで、青森県に対するイメージアップにつながります。来年、再来年と足を運んでもらうリピーターを作るために内容を充実させ、改善することが重要です。(24)



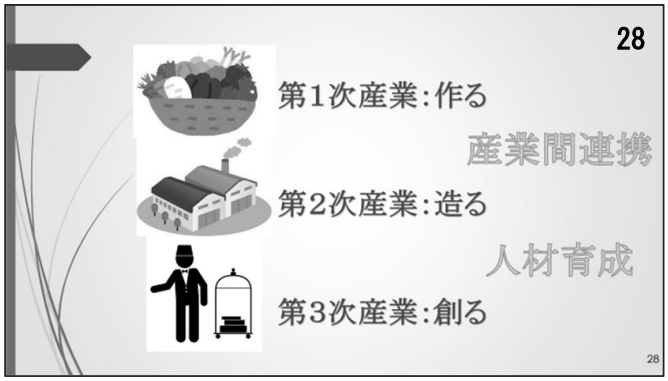
体験型農業の促進その２。農業ホームステイの拡充は修学旅行などで行われていますが、農業系の大学との連携を推進することによって、より多くの人に農業に関わる機会を提供できます。(25)



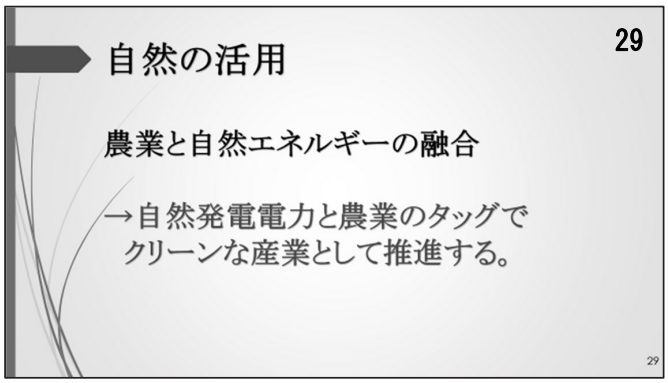
体験型農業の促進その３。農業のプロフェッショナルな農家の人にマイスターとして活躍してもらうことによって就農希望者の増加につながると思います。（26）



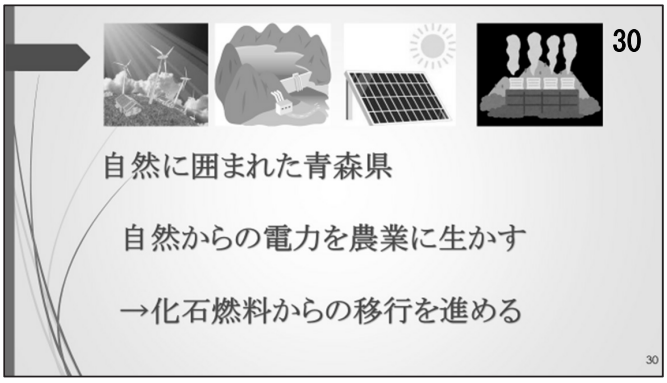
観光産業としてのメリット。農家の収入源としての活用と雇用人材の創出の可能性。私たちは産業別にこのように捉えました。第１次産業：モノを作る、第２次産業：自動車等を造る、第３次産業：サービスを提供するモノを創る。（27）

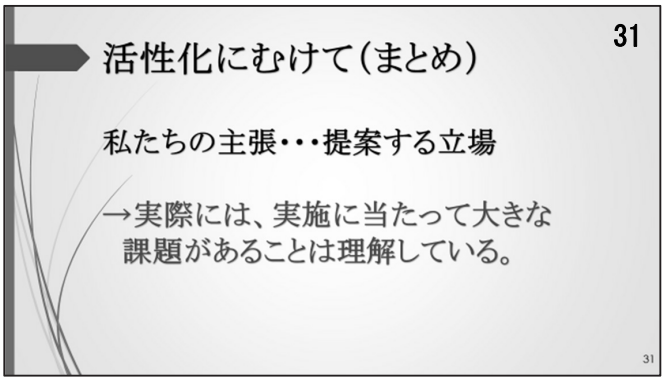


イラストにしたのはこちらになります。漢字で表すと３つの漢字に表せると思います。（28）



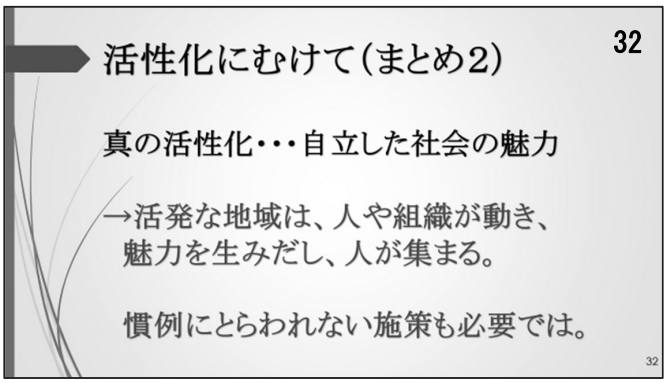
続いては自然の活用です。ここでは農業と自然エネルギーの融合について考えました。自然エネルギーとしては、太陽光、水力、風力、地熱などが挙げられます。それらを活用することによって化石燃料からの移行を進めることができます。（29、30）



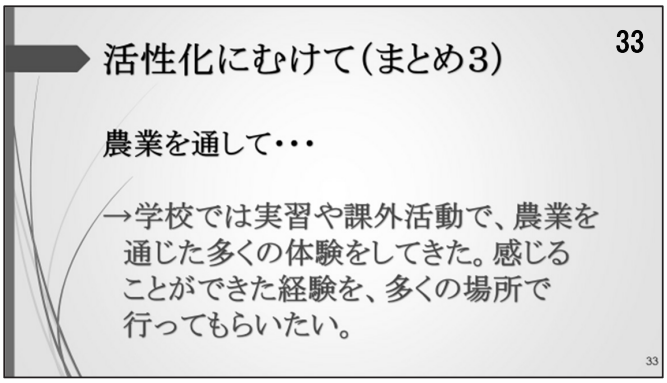


活性化に向けて３つに分けてまとめてみました。

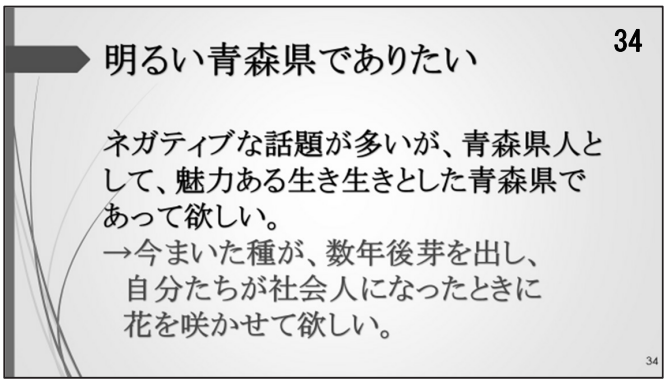
私たちの主張です。実際には実施に当たって大きな課題があることは理解していますが、これらのことを実施すれば青森県の活性化は間違いないと思います。(31)



活性化に向けてその２、自立した社会の魅力についてです。今あるものの常識にとらわれないやり方も必要ではないでしょうか。(32)



活性化に向けてその３、私たち藤崎校舎では畑を耕したり、野菜を収穫した喜びを学んでいます。その喜びを多くの人に伝えたいです。(33)



そうすることでネガティブな話題が多い青森県ですが、今蒔いた種が芽を出し、自分達が社会人になったときに花を咲かせると思います。農業をなくして青森県の活性化はないです。農業高校で学ぶ生徒として、今回の高校生模擬議会を切っかけにして今後も考えていきたいと思います。(34、35)

【質　疑】

●齊藤（さいとう） 直飛人（なおひと）議員（自由民主党）

（齊藤議員）

農業の組織化による月給制度、このようなものが農業の生活安定、収入安定につながるのではないかという話がありました。私もまさしくそのとおり、これからはそういったものが必要であると思っております。そういった中での組織化ということですが、具体的にどういうかたちの組織ができていけば月給制度にできると考えていますか。

（回答）

小さい農家が集まり、共に協力して組織化できればと考えます。その中で農業を観光に生かすということ。青森県に観光に来た人たちに農業を体験してもらうこと等により、青森県は農業にも力を入れているということを知ってもらい、安定収入につなげられればと思います。

（齊藤議員）

農業を観光につなげて日本全国、もしくは世界に広げていきたいということですが、飯が食える農業、まさしくそのとおりでして、昔は伝統文化とか親代々とか、そのようしきたりの中で農業者後継が進んだものですが、現代社会はそうはいかないというのが現実です。食えなければ、儲けなければ農業をやらないというのは正直な話で、これはやはり生活がかかっていますので、綺麗事ではないと思います。親の世帯、そして今後家庭を持つ中での自分の世帯、この２つの世帯をどう担っていくのかということは、これからの農業の後継者問題に関わる大きな課題であると考えます。

お金は大事ですが、やはりいろいろな刺激も必要かなと思う中で１つ面白い例を紹介します。私の家のすぐ側に、横浜出身の若い人が住んでいます。その人は自転車で日本縦断をしていたのですが、青森県のりんごの風景が忘れられず、自転車でまた青森県に戻ってきたんです。そしてりんご農家にお願いして住み着いてりんごの栽培技術を学び、その後自分で補助金等を使いながら畑を買って、中古の家を買って、弘前からお嫁さんまでもらって今本当に頑張っています。昔、親父の手、農家の手ということが言われた時代がありましたが、その若い人は20代なのですが、グローブのような手、本当に仕事をしている手をしていました。

お金も大事ですし、いろんな刺激も受けながら、今後の青森県の農業、そして農地を、皆さんのような若者の手で支えていただきたいと思います。

●田中（たなか） 満（みつる）議員（民進党）

（田中議員）

発表の中で、モノの不足による人材流出ではなく、魅力、生活の不安定による流出が青森県では進んでいるというお話がありました。やはりこれは今青森で一番の課題であり、私たちも同じような共有をしています。これから食糧不足になる時代が間もなく来るんじゃないかという話もありますが、そのときに青森県は食糧生産県として、しっかりと国内、そして海外に向けてもいろんなものが出せるような農業県であるべきじゃないかと私も思っていますので、これからの農業の発展に期待していきたいと思います。

これからどの農業をやる方も６次産業化というのは大変重要になると。いいものを作って、それを加工し、さらにそれをしっかりとした流通に乗せて販売していくということが大事だと思いますが、この６次産業化は青森県でもどんどん進んでいて、例えばＡプレミアムといって、まだ魚介類だけですけれ

ども、青森県のホタテなどが明日には香港などに届くというような物流の流れなどもできています。そういうイメージを農業でも持っていきたいなと私は思っていますが、皆さんのお考えはいかがでしょうか。

（回答）
　そのとおりだと思います。

（田中議員）
　やはりこれからはインターネットとか、そういうものも皆さんもいろんな活用をしていると思いますが、世界から青森県の農業が注目されるように、皆さんにもより一層勉強していただいて、青森の農業は素晴らしいんだということをいろいろなところでアピールしていただければと思います。
　そのことが青森県全体の発展につながっていくものと考えますので、一緒に頑張っていきましょう。ありがとうございました。